



副鼻くう炎^{ふくび}

かぜは治ったのに、あるいはかぜっぽくはないのに鼻水、鼻づまりが続くという経験はないでしょうか。このような場合は慢性副鼻くう炎を起こしている可能性があります。

副鼻くうは、鼻の穴に隣接した顔の骨の内側にある計4カ所の空洞です。通常は空気の入った空間ですが、そこに何らかの原因で細菌などが入ると炎症を起こすことがあります。これを副鼻くう炎といいます。

副鼻くう炎は、急性副鼻くう炎と慢性副鼻くう炎に分けることができます。急性副鼻くう炎は、かぜなどのときに副鼻くう内に急激な細菌感染が起こり、濃い鼻水や鼻づまりと共に顔面痛や頭痛を引き起こします。また熱が出ることもあります。一方慢性副鼻くう炎は、鼻水、鼻づまりが長期間続きますが、強い痛みや熱が出ることはほとんどありません。急性と慢性に共通

する症状として、においがわからなくなる嗅覚障がいや鼻水がのどに流れる後鼻漏があります。特に慢性副鼻くう炎における後鼻漏は、長引く咳の原因となることもあり注意が必要です。ちなみにいわゆる「蓄のう症」は慢性副鼻くう炎と同じ意味で使われています。

治療は抗生剤などの内服や直接薬液を吸入するネブライザー療法、溜まったうみを洗い流す副鼻くう洗浄などがあります。また慢性副鼻くう炎の場合、薬などで改善しないときは手術をすることもあります。

最近では、ぜんそくを合併する難治性の好酸球性副鼻くう炎も増加しています。鼻水、鼻づまりが続いたときは一度耳鼻科を受診しましょう。